体協だより スポーツ高岡

第14号

平成26年度 公益財団法人 高岡市体育協会表彰（児童・生徒）

平成26年12月6日㈯、高岡商工ビルにおいて、全国大会で入賞（高校生は3位以上、小・中学生は入賞）した5団体、16個人が表彰されました。（受賞者はP7に記載）

塩谷雄一会長が「まだ通過点だと思って、さらなる努力を続けてほしい。」とあいさつし表彰状と記念品を贈りました。引き続き、氷見哲正教育長が祝辞を述べ、受賞者を代表して伊藤幹選手（高岡商業3年）が「皆さんの支援に応えるため、今後も精進し一層の努力をしたい。」と謝辞を述べました。

『国体を振り返って』

高岡商業高校　男子ソフトテニス部　主将　伊藤　幹

長崎がんばらんば国体では、台風が直撃し、日程変更によるアクシデントがありました。しかし、私たちはアクシデントを想定した訓練を積んできたため、他のチームが不利な状況の中、精神的な余裕がありました。全国制覇を目指してきましたが、結果は3位となり満足のいく結果ではありませんでしたが、結果よりも保護者の方々、指導者の方々、仲間やこれまで競技を支えてくれた方々に感動を与えた内容が何より嬉しく思います。今後も精進し、関わって下さった方々へ恩返しができるよう努力していきます。

『全国大会を振り返って』

伏木中学校　弓道部　主将　畑　幸光

「全国大会入賞」という目標を掲げ、僕たちは切磋琢磨してきました。そして一本の矢に思いを込めて行射した全国大会で団体5位入賞を果たすことができました。これは僕たちを応援してくださった先生方、家族、地域の方々のおかげです。後輩たちにはより上位を目指して頑張ってほしいです。

「花園の舞台に立つ」

高岡第一高等学校ラグビー部

第94回全国高校ラグビー大会に、初出場、初勝利した高岡第一高等学校ラグビー部。選手の中には、地元高岡っ子が多数いる。そんな選手たちが、全国大会で活躍する姿は、とても誇らしく応援にも力が入る。

選手を育てた監督と、花園の舞台で堂々と戦った選手達にコメントをいただいた。

高岡第一高等学校　ラグビー部監督　吉田　治夫

高岡第一高等学校のモットーは「オールアウト」全力を出し切ると言う意味です。監督になって26年、花園出場はぶれることなく持ち続けてきた目標でした。十年間はほとんど勝てず、部員数も減少し、少人数制の部に出場したり、高岡高等学校との合同チームで大会に出場していました。7年前、「いつか強くなったら、こうしてやろう」と考えてきたことを、「勝つために、出来ることは今やろう」と方向転換し、ウエイトトレーニングコーチを招聘し、休みごと全国の強豪チームに出向き、合同練習をして、試合もさせてもらいました。

今回の花園では初出場で１回戦突破を果たしましたが、２回戦はシード校相手に大敗し、全国レベルとの差を痛感しました。高岡ジュニアラグビーで小学校からラグビーを始めた経験者が、入部してくれるようになったのが本校躍進の大きな力となっています。「高岡でラグビーを始めた子を、花園で勝てる全国レベルに育て、全国の大学に送り出す。」新たな目標にむけ、今まで以上に部員と共に汗を流していきたいと思います。

ＦＷ	池辺	大成②（十三）	ＦＢ	藤	駿輔③（国吉）
	藤森	郁弥③（五位）	Ｒ	長澤	顕慈①（高陵）
	網谷	龍太③（小杉）		伊藤	一②（戸出）
	浜田	真冬②（伏木）		葛西	笙①（南星）
	長尾	皓平③（庄西）		村田	栄人①（南星）
	三浦	克之③（芳野）		小松	亮太②（牧野）
	清水	雄太②（芳野）		山下	大樹①（灘浦）
	◎山﨑	天雅③（五位）		釣井	亮聖①（灘浦）
ＨＢ	石澤	征也③（出町）		森	雄基②（西條）
	吉田	治寛①（井口）		尾矢	大樹②（十三）
ＴＢ	渡辺	空伍②（芳野）		材木	魁人①（氷見南部）
	吉田	重治③（井口）		宮崎	陸①（高岡西部）
	伊藤	匠②（庄西）	監督	吉田	治夫
	中谷	嘉己③（福岡）			

※ポジション、名前、学年、出身中学の順。
◎は主将。

主将　３年　山﨑　天雅

私たち高岡第一高等学校ラグビー部は、全国高校ラグビー大会に初出場しました。その花園に出場するだけでなく、１勝することを目標に練習してきました。初戦は勝つことが出来ましたが、２回戦は大敗しました。60分間攻められっぱなしで、とても苦しくて辛い時間でした。それでも私たちは、その苦しさを楽しむことが出来ました。それは声をかけ合い、力を出し切ることが出来たからです。この経験は次につながるとても良いものとなりました。このチームでラグビーが出来て、本当に良かったです。

新チーム　副主将　２年　清水　雄太

花園では、今まで県内で通用していたプレーも上手くいかないことがあり、全国レベルを実感しました。しかし応援してくださった方々の支えがあり、どれだけ点差を相手チームに離されても、最後までプレーすることが出来ました。

新チームになり、目標は花園２勝。しかし自分達はラグビーのスキルは未熟で、体作りもまだまだなので一回の練習、ウエイトトレーニングを大切にし、花園で勝てるチームになれるように技術的にも人間的にも成長できるよう頑張っていきたいです。

平成26年度(公財)高岡市体育協会研修会

座談会「ジュニア選手育成強化 ～2020年東京五輪にむけて～」

12月6日㈯午後５時より高岡商工ビルにおいて、本協会高森勇副会長が座長を務め、競技団体指導者の代表として、西本幸夫氏(高岡市バドミントン協会)、苅部望氏(高岡レスリング協会)、内河健二氏(高岡市柔道連盟)、堀剛文氏(高岡市卓球連盟)で座談会を開催しました。

はじめに

座　長　高森　　勇

2020年東京五輪に向け、高岡市関係選手ではレスリングの登坂選手などの活躍が期待されている。市内関係者の五輪出場は、最初がマラソンの寺沢選手で当時世界記録を出し期待されたが、前回の東京大会は15位。バルセロナは、柔道女子監督の中村先生。バドミントンの本山選手。アトランタは、陸上の大森選手が4×400mリレー５位。アテネは、バドミントンの舛田・大束ペアが５位。山田選手も出場。トリノは、本協会村田主幹がスケルトン監督。ロンドンは、バドミントンの佐々木選手が５位。競歩の谷井選手は、アテネ、北京、ロンドンと３大会に出場。全員で10人出場している。本日の話題は、本協会のジュニア選手育成強化事業の４つの基本方針（一貫指導体制、連携強化、指導者の確保、育成強化拠点の整備）についてである。

話題１：一貫指導体制

高岡市バドミントン協会常務理事　西本　幸夫氏

高岡市選手は、富山県レベルでは上位に位置し、北陸ブロックレベルでも戦えている。ナショナルレベルの選手を輩出しているトナミ運輸があるので、良い選手や監督に指導を受ける環境はある。国際大会や五輪を目指すためには、当然に練習環境の整備、指導者の確保に更なる努力が求められる。今のバドミントン界は、中高一貫指導の埼玉栄や福島の富岡に進学し、ナショナルチームに入る。県内小学生で２名ほど高いレベルの選手がいるが、中高一貫指導校へ進学しないとナショナルチームに入り、国際大会には出られないという雰囲気がある。高岡としては、県外へ出したくなく、富山県の中学・高校も指導者の異動を少なくし、学校部活動の後にトナミ運輸などの指導を受けるようにして、一貫指導体制に近づけたい。

話題２：連携強化

高岡レスリング協会副会長　苅部　　望氏

レスリングは、幼稚園から小学生まではスポーツ少年団として活動している。指導は、楽しく、そして強くを目指している。楽しい・強くは真逆に聞こえるが、楽しんでいるうちに競技が好きになり、強くなっていく。特に同年代の選手が何人かいると、切磋琢磨できる。中学生は、レスリングの部活動がなく、小学生で全国的に活躍しても、他の部活に入らざるを得ない。過去に全国大会出場申込のため、学校長の印をもらいに回ったが、部活動がないので理解してくれない先生もいた。あの時全国大会へ出場できていなかったら、今の登坂達がいなかったかもしれない。今後、中学校にレスリング部が作られることを強く望むが、レスリングクラブでの活動にもご理解いただき、もっと学校と連携していければよいと思う。

話題３：指導者の確保、選手の確保

高岡市柔道連盟副会長　内河　健二氏

柔道連盟は、15年前から県営高岡武道館で健心会と銘打ち、小学生から一般までの強化練習会に取組んでいる。その甲斐あって、多くの小・中・高校生が全国大会で活躍してきた。しかし、最近、幼稚園でサッカーの普及活動が行われていることもあり、小学生の柔道人口が急激に減少した。柔道連盟では、３年前から低年齢層を取込むため幼稚・保育園児に対し「はじめての柔道教室」を開催している。いきなり柔道は難しく、体幹運動が中心で柔道としては寝技を楽しみ、次に受け身や投げられるなどの負ける練習をする。ここまでくるのが大変で、柔道から離れないように声をかけている。選手強化は、神奈川で活躍された高木先生が、氷見や新湊、高岡の子供たちが寄宿できる さくら柔道塾を開かれ、体と心のトレーニングに励んでいる。早朝トレーニングから始まり、学校での部活動、その後柔道塾での指導により、全日本で活躍できる選手を輩出してきた。毎年開催される世界選手権等では活躍すると思うが、2020年にはまだ時間がある。今後は、若い指導者と若い選手たちを一緒に育て、高校・大学へと送り込んでいきたい。

話題４：育成強化拠点

高岡市卓球連盟副理事長　堀　　剛文氏

卓球連盟は、毎年ゴールデンウィークに竹平記念体育館他で全国規模の高岡オープン卓球大会を開催している。最近では卓球もインターネット等で観ることはできるが、やはり生で観戦や対戦する経験をさせたくて始めた。11年前の当初は400名程だったが、今では1000名を超える規模となり、本州各地からホープスナショナルチームの強豪選手も来てくれている。もともとトップ選手を観せるために始めた大会だが、今ではその中で戦える選手を育てることを目指している。全国大会を開催するにあたり、運営面では、2000年国体で卓球競技が福岡町で開催されたこともありノウハウはあった。しかし、施設面では、裏で支える進行、記録、報道等の役員室、医務室、選手控室等の付帯場所が不足している。新総合体育館（仮称）には、アリーナの広さはもちろんのこと、付帯場所を充実させ、どの競技でも全国大会の誘致ができるよう建設していただきたい。スポーツを通して高岡市を盛り上げられるような環境整備を期待している。

まとめに

座　長　高森　　勇

ジュニア選手の育成強化には、確かな知識・資格を持ち、責任ある指導者が必要。さらに選手に対しては栄養、心理面及びケガに対するサポートが必要。指導者は、マスコミ、企業、保護者など周りの人達と良い関係を築いていかないと成功しない。

あと５年で東京五輪。高岡市から五輪選手を輩出できるよう、期待したい。

「北陸新幹線新高岡駅開業記念」第10回高岡市民体育大会 冬季競技

第10回高岡市民体育大会の幕開けとして、スキー競技・スノーボード競技が平成27年２月１日㈰に極楽坂スキー場で開催された。

時おり降る雪の中、小学１年生から70代の選手約70名が参加し、各部門に瞬時の速さを競いあって日頃の練習の成果を発揮した。

新春武道稽古始め

新春恒例の武道稽古始めが、平成27年１月４日㈰県営高岡武道館及び高岡市営弓道場、芳野中学校体育館・武道館において、柔道・剣道・弓道・空手道・銃剣道・少林寺拳法・合気道の７団体による愛好者、総勢約800名が参加し、今年一年の精進を誓い、初稽古に汗を流した。

稽古に先立ち、高岡武道館で開会式を行い、塩谷会長が挨拶、来賓を代表して髙橋高岡市長と狩野市議会副議長が祝辞を述べた。模範演技として、柔道連盟指導者による講道館護身術を披露した。

第６回 ジュニア選手育成指導者研修会

平成27年1月27日㈫、小川恭二 氏(STAG ECOACH代表・日本トレーニング指導者協会認定上級トレーニング指導者)を講師に招き、指導者研修会を実施した。

競技団体指導者・スポーツ少年団指導者・中学校教諭等80名が参加し、ジュニア選手に適したトレーニング方法を指導者自らが実践した。

講師からは、子供のころからの正しい姿勢がその後の競技力向上につながり、故障も少なくなることを説明いただき、参加者は片足を上げて骨盤が動かないかをチェックし、正座してしっかり腰が入っているかを確かめた。そのほか、足首を柔らかくするための練習方法やつま先や膝などの正しい動かし方等を指導いただいた。

伏木錬成館バトントワラーズ

平成26年12月13日㈯・14日㈰、第42回バトントワーリング全国大会が千葉市の幕張メッセで開催されました。U−12ペップアーツ編成の部門で伏木錬成館バトントワラーズが、バトンやハンドル、ボックスの手具を使い「スーパーマリオブラザーズ」をイメージした演技で見事１位となり最優秀賞に輝きました。

北陸新幹線 新高岡駅に「かがやき」停車実現へ

「１人１客・１人１乗車運動」実施中!!

新高岡駅から新幹線に乗って、観光旅行やスポーツ交流など大いに楽しみましょう！

写真提供：オールスポーツコミュニティ

第35回 高岡万葉マラソン

参加者募集中

■と　き　6月14日(日) 午前9時

■ところ　城光寺陸上競技場スタート・ゴール

■種　目　ハーフマラソン、10km、5km、2km
（各種目とも年齢別、計21種別あります）

■対　象　小学生以上で健康な人

■参加料　一　般 3,500円　　高校生 2,000円
中学生 1,500円　　小学生 1,000円

■申込み　5月8日(金)まで、市内体育施設にある大会要項に従ってお申し込みください。
※高岡市体育協会ホームページにも掲載いたします。

「土曜っ子スポーツチャレンジ」が変わります！

平成14年から高岡市内の小学生を対象に行っている「土曜っ子スポーツチャレンジ」が、以下のように変わります。

	年間			
(旧) ～H26年度	第1期 (ラグビーなど) 6回	第2期 (水泳など) 6回	第3期 (バレーボールなど) 6回	
(新) H27年度～	第1期 (水泳など) 4回	第2期 (サッカーなど) 4回	第3期 (バレーボールなど) 4回	第4期 (柔道など) 4回

このように変えることによって、
- 土曜っ子で体験できるスポーツの種目が増えます！
- 各期の回数が以前よりも少ないので、気軽に参加できます！
- 各期が以前よりも短いので、次の実施日までの間隔も短くなり、集中して活動できます！

子どもの頃にさまざまなスポーツにチャレンジすることで、体はたくましくなります。また、違った学校の児童と一緒に活動することでコミュニケーション能力が高まり、心はしなやかになります。

第1期～第4期まで通して参加すれば、かっこいいスポーツマンになれるかも？（※もちろん気になる期のみの参加も大歓迎です!）

たくさんの小学生の参加を心よりお待ちしております!!

平成27年度高岡市スポーツ少年団都市間交流事業（計画中）

平成27年3月14日㈯、ついに北陸新幹線が開業し東京から新高岡まで約2時間20分で結ばれました。これを契機として、高岡市スポーツ少年団では北陸新幹線沿線都市とスポーツ交流を図り、相互理解を深めながら友好の輪を広げることを目的として都市間交流事業を計画しています。

現状（2月現在）では、まだ具体的な都市名を挙げることはできませんが、一都市と交渉中であり調整を図っているところです。計画では、平成27年度は高岡市に団員・指導者をお招きし、スポーツ活動やレクリエーション活動、市内観光等を行う予定です。平成27年度の単年事業ではなく継続事業として捉えており、お互いの都市を交互に訪問できればと考えています。

高岡市中学校体育連盟

男子バレーボール競技専門部

活動の取り組み

競技主任　山崎　　亮（戸出中学校）

現在、高岡市の中学校４校に男子バレーボール部があり、総勢60名が活動に参加しています。

バレーボールを通した中学生らしいさわやかな人間形成、各チームのレベルアップのための課題克服、競技人口の増加を図るために、高岡第一高校の先生を招いて講習会を行ったり、招待チームを交えて、総当たりの練習試合を行ったりして、活動を盛り上げています。また、高岡市バレーボール協会が中心となって、小中連携のバレーボールフェスティバルやV・プレミアリーグバレーボールチームを招いての練習会など、バレーボールを通して、友情を深め合う取り組みも行っています。

今年は、芳野中学校が県選抜大会に出場し、今後の活躍が期待されるなか、北信越大会出場を目標に、技術面を磨き、精神面も鍛えて、自信をもってプレーできる集団になれるように日々練習を積み重ねています。

また、バレーボール競技を通したマナーの向上など人間的な成長と併せ、生涯スポーツとしてのバレーボールへの関心を高めてもらう活動でもあると考えています。

女子バレーボール競技専門部

競技力の向上を目指すため

競技主任　古志野　　成（志貴野中学校）

現在、高岡市内の12中学校全てに女子バレーボール部があり、100名以上の部員が所属し、日々練習に励んでいます。

高岡市中体連女子バレーボール競技専門部では、競技力の向上を図るため、８月に強化練習会、10月に講師を招いて講習会を行っています。

また、平成28年度に富山県で全日本中学校バレーボール選手権大会が開催されます。そこで、高岡市バレーボール協会の協力のもと、12月に行っていた強化練習会を交流試合にし、県内外の強豪チームを招待することで、競技力の向上だけでなく、指導者、生徒ともにスムーズに大会運営が行うことができるよう取り組んでいます。

高岡市内のチームから来年の全日本中学校バレーボール選手権大会に出場できるよう、今後も指導を続けていきたいと思います。今後ともご支援・ご指導の程宜しくお願いします。

地域スポーツ

山王地区体育振興会

筋力トレーニング教室

毎月２回（第２･４水曜日）、筋力トレーニング教室と題しまして心と体の体操を行い、健康になりましょう!!という教室を開催しております。

教室ではまず、「元気はつらつ体操」と「筋力アップ体操」を30分程度行い、体を動かします。普段動かさない筋肉も伸ばすようにしているので、体はポカポカと温かくなり、とても良い運動になると好評です。この体操だけをやりに来られる方もおられるほどです。

その後は、カローリングやペタンク、天気の良い日には外に出て、グラウンド・ゴルフ等を楽しんでおります。

また、年に1･2回は地元のパークゴルフ場へ行き、パークゴルフを行い親睦を深めております。その他、野外研修として富山県内の観光スポットへ行き、楽しんで様々な物を見て回ったりする企画も立てております。

当体育振興会では皆さんの心と体が健康になるようにとの願いを持ち、無理せず楽しくをモットーに今後も様々なイベントや教室の運営企画をしていきたいと思います。

平成26年度　（公財）高岡市体育協会表彰（児童・生徒）

■水泳競技

坂田　麗鳳（能町小5年／高岡スイミングクラブ）
第37回全国JOCジュニアオリンピックカップ
９～11歳男子１ｍ飛板　８位

長澤　明生（芳野中2年／高岡スイミングクラブ）
第89回日本選手権水泳競技
飛込競技　女子１ｍ飛板　８位

■陸上競技

手塚　麻衣（志貴野中１年）
第45回ジュニアオリンピック陸上競技大会
女子区分Ｃ　100m　４位

■ソフトテニス競技

高岡商業高等学校／男子ソフトテニス部
伊藤　幹・谷村　健太・荒木　彰吾
焼田　郁弥・長岡　匠・徳川　開吏
第69回国民体育大会　ソフトテニス競技
少年男子　３位

■バドミントン競技

高岡ジュニアバドミントンクラブ
上森妃李羅（南条小６年）
廣上　瑠依（戸出東部小６年）
矢野　茉歩（新湊小６年）
堀井　七海（戸出東部小６年）
浅川　詩乃（国吉小５年）
岡山　莉呼（国吉小５年）
高井　優（牧野小５年）
中出すみれ（宮田小５年）
尾崎　楓（成美小４年）
浜出　珠季（野村小４年）
第30回若葉カップ
全国小学生バドミントン大会　５位

高岡第一高等学校／バドミントン部
西部　凌太・竹内　裕哉・畔上　駿平
西村　達也・吉村　徳仁・谷口　拓実
真川　嵩平
平成26年度全国高等学校総合体育大会
バドミントン競技大会 学校対抗の部　３位

谷口　拓実（高岡第一高２年）
第33回全日本ジュニアバドミントン選手権大会
ダブルスの部　３位

真川　嵩平（高岡第一高１年）
第33回全日本ジュニアバドミントン選手権大会
ダブルスの部　３位

■ハンドボール競技

高岡向陵高等学校／女子ハンドボール部
宮本　莉奈・檜木　祐穂・蔵　はるか
唐木澤槙央・濱下　友里・土平　瑠華
林　のぞみ・向　咲重・水野　元子
木村　真樹・犀藤　菜穂・三浦　友紀
島田　奈緒・島田　穂代
平成26年度全国高等学校総合体育大会 兼 高松宮記念
第65回全日本高等学校ハンドボール選手権大会　３位

■相撲競技

四日　天海（伏木小６年）
第５回全日本女子相撲郡上大会
小学生６年生50kg以上60kg未満級　２位

竹内　陽香（呉羽中２年）
第11回全日本中学生女子相撲大会
中学生の部　超軽量級　３位

■弓道競技

伏木中学校／男子弓道部
畑　幸光・髙田　歩暉
瀬戸　秀輔・水上明日翔
第11回全国中学生弓道大会
ＪＯＣジュニアオリンピックカップ大会
団体男子の部　５位

髙橋　愛美（伏木中３年）
第11回全国中学生弓道大会
ＪＯＣジュニアオリンピックカップ大会
個人女子の部　８位

■レスリング競技

畔上　浩輝（東五位小6年／高岡ジュニアレスリングクラブ）
第31回全国少年少女レスリング選手権大会
小学生の部 ６年生 36kg級 ＲＥＤ　３位

中谷　湖雪（国吉小6年／高岡ジュニアレスリングクラブ）
第31回全国少年少女レスリング選手権大会
小学生の部 ６年生 40kg級　１位

中村　成実（魚津市上野方小6年／高岡ジュニアレスリングクラブ）
第31回全国少年少女レスリング選手権大会
小学生の部 ６年生 32kg級　１位

奥村　大地（万葉小３年／MIYAHARA GIM）
第31回全国少年少女レスリング選手権大会
小学生の部 ３年生 22kg級　３位

兼松　尚輝（高陵中1年／高岡ジュニアレスリングクラブ）
第19回全国少年少女選抜レスリング選手権大会
小学生の部 ６年生 54kg級　３位

■空手競技

中谷　翔貴（砺波東部小６年／剛信館道場）
第14回全日本少年少女空手道選手権大会
６年男子　組手　２位

福田　兼大（富山市興南中２年／秀武館道場）
第８回全国中学生空手道選抜大会
１年男子　形　５位

西島　菜恵（高岡西部中２年／秀武館道場）
第８回全国中学生空手道選抜大会
１年女子　形　５位

ジュニア選手育成強化事業「指導者招聘研修会」に参加して

高岡市ソフトテニス連盟
高岡ユースソフトテニスクラブ　佐々木　宏和

平成27年2月7日(土)・8日(日)、日本のトップレベルの指導者である伊加英隆先生(尽誠学園高校女子ソフトテニス部部長)をお招きし、市内の小中学生とその指導者が共に学ぶ研修会を開催しました。

全ての基本となる待球姿勢のパワーポジションの説明からフットワークトレーニングへとつながる場面では、姿勢や動作のポイントをできるだけ端的な言葉で伝わりやすいように説明され、全員が理解し体得できていました。技術習得、特に感覚的な部分をつかむ練習では、アニメの必殺技を例に出されたり、ラケットを使わずに手のひらの感覚で感じるというアプローチがあったりと、達成度に合わせて丁寧に進められていたのが印象的でした。他にもグループ同士で競争するメニューでは、競争意識が生まれたり、自ら考えて工夫をしたり、仲間と協力をしたりと、夢中になって取り組む子どもたちの姿がありました。新たなことを知る喜びや、できるようになる喜びを感じていた子どもたちの表情は何とも楽しそうでした。

この研修会を通して、古い経験、限られた知識、価値観を指導者自身が自ら学び更新していかなければならないと改めて感じました。

スポーツ施設紹介 高岡市福岡B&G海洋センター

●問合せ先
〒939-0102 高岡市福岡町三日市579-1　TEL：0766-64-3396

福岡Ｂ＆Ｇ海洋センターは公益財団法人Ｂ＆Ｇ財団が建設し、平成５年６月に無償譲渡を受け、現在、市体育施設として管理、運営しております。

バスケットボールコート…１面、バレーボールコート…２面、バドミントンコート…３面のアリーナを始め２階第二体育館は柔道場・剣道場・卓球台３台があります。

プールは平成23年10月にリニューアルオープンし25mプール…６コース（スロープ付）幼児用プール６m×12m（水深50㎝）が有り屋内温水プール（暖房完備）として通年で利用できます。

●利 用 料：プール…大人200円、中高生100円、小学生25円
体育館…無料

●開館時間：９時～21時（ただし、12時～13時、17時～18時は施設内清掃、管理のため閉館）

●プール開館時間：平日 13時～21時、土・日 9時～21時

※休館日は月曜日、祝日の翌日、年末年始

掲示板「だからテニスはおもしろい」

テニスサークル　Ｔ・フリーク

当サークルは、1989年に設立され25年以上の歴史があります。

メンバーは男子16人、女子10人と年齢も幅広く、テニスを楽しみながら多くのメンバーの方々と交流を深め、体力維持・向上に汗を流しています。

練習では、経験者も未経験者も混じり一緒に練習し、テニスの面白さ、楽しさを味わいながら頑張っています。他に合宿やクリスマス会を兼ねた忘年会や総会、団体戦にみんなで出場と行事も沢山実施しています。また、メンバー内には、過去には県で素晴しい成績を残した選手や、現在も富山県年齢別選手権で優勝等の選手もいます。

今、世間では錦織選手の活躍により、日本中でテニスブームが巻き起こっています。

個人的な意見ですが、もっともっとテニス人口が増加しても良いのでは？と思っています。呉西地区で硬式テニスを始めてみたい方は、是非練習を覗きに来てみて下さい。

試合観戦も楽しいですが、実際にしてみるともっと面白いですよ。

●活動日　毎週土曜日
高岡スポーツコア（４月～11月）
各市町村の体育館（12月～３月）

●問合先　織田　利隆（090－5683－3234）

日本リーグ情報

トナミ運輸バドミントン部（男子）

大 会 名：バドミントン日本リーグ2014
開 催 日：2014年９月13日㈯～12月28日㈰
会　　場：全国各地
結　　果：トナミ運輸　準優勝
表彰選手：殊勲選手賞　平田典靖/橋本博且ペア
試合方法：２ダブルス１シングルスの２ポイント先取
対 戦 表：

優　勝	1対2	ＮＴＴ東日本		(7勝0敗)
準優勝		**トナミ運輸**		**(6勝1敗)**
3　位	3対0	トリッキーパンダーズ		(5勝2敗)
4　位	2対1	日本ユニシス		(4勝3敗)
5　位	3対0	日立情報通信エンジニアリング		(3勝4敗)
6　位	3対0	東北マークス		(2勝5敗)
7　位	3対0	金沢学院クラブ		(1勝6敗)
8　位	3対0	丸杉		(0勝7敗)

▶バドミントン日本リーグ2014は、昨年に引き続き高岡大会で開幕を迎えた。２年振り７度目の優勝を目指す地元トナミ運輸チームは全国各地で試合を行い、対戦チームに５戦目まで３対０で完勝してきたが６戦目のNTT東日本戦で接戦の末惜敗したのが響き２年連続準優勝で幕を閉じた。しかし最終戦の強豪ユニシス戦では、若手選手の大活躍で勝利をもぎ取り来年度の優勝が大いに期待される。

タカギセイコーソフトテニス部（女子）

大 会 名：第32回ソフトテニス日本リーグ
開 催 日：2014年12月12日㈮～12月14日㈰
会　　場：広島県立総合体育館
結　　果：タカギセイコー　４位
試合方法：２ダブルス１シングルスの２ポイント先取
対 戦 表：

優　勝	0対3	ＮＴＴ西日本広島		(6勝1敗)
準優勝	2対1	東芝姫路		(5勝2敗)
3　位	1対2	ヨネックス		(5勝2敗)
4　位		**タカギセイコー**		**(4勝3敗)**
5　位	2対1	ダンロップ		(3勝4敗)
6　位	1対2	ナガセケンコー		(3勝4敗)
7　位	3対0	ワタキューセイモア		(2勝5敗)
8　位	2対1	アドマテックス		(0勝7敗)

▶第32回ソフトテニス日本リーグは12月12日から３日間の日程で昨年と同会場の広島県立総合体育館で開催された。地元タカギセイコーチームは４勝３敗と勝ち越したが、初戦のヨネックス戦の敗戦と、優勝チームのNTT西日本広島に０対３と完敗したのが痛く勢いに乗り切れず昨年同様４位の結果となったが、シングルスに全試合出場した徳川選手は、５勝２敗と健闘し、来年の大会につなげたのが収穫であった。

編集後記

「現実的で夢や欲がない」「打たれ弱い」など、若者たちのイメージは、一般的によくないものが多いように思われる。しかし、スポーツ界には、昨年日本中で注目を集めたテニスの錦織圭選手やスケートの羽生結弦選手のように、夢をもって前向きに頑張る若者はたくさんいる。その活躍は、努力を積み重ねることの価値や心を磨くことの大切さを教えてくれる。

今回の記事を含め、「スポーツ高岡」には毎回、スポーツ界で活躍する方々が紹介されるとともに、これからの未来を生きる児童、生徒の活躍や支援が紹介されている。どの記事からも学ぶべき点が多い。自分自身も、自分と誠実に向き合い、努力を積み重ねていくことができる人間でありたいと考えている。

広報調査委員　中村一成